

遠隔教育の現状の課題と可能性

佐藤 郡衛

東京学芸大学

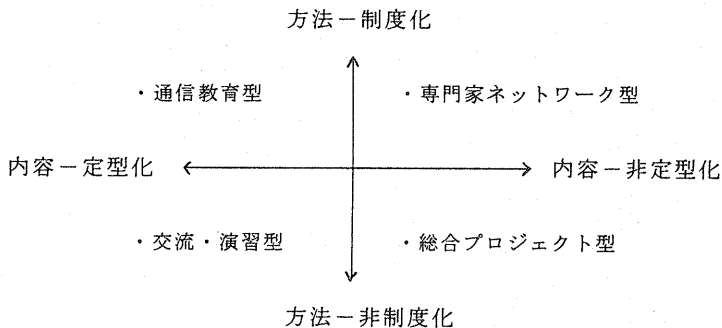
1. 遠隔教育の必要性を考える

- (1) 遠隔教育の4つの基礎条件
- (2) 遠隔教育を必然化させるには学びの質を問う必要がある

2. 遠隔教育の現状と問題点

- (1) 遠隔教育の現状
 - ① 放送大学・大学間ネットワーク
 - ② 社会教育
 - ③ 行政・企業内研修
 - ④ 学校インターネット
- (2) 遠隔教育の問題点
 - ① 小・中・高等学校では「消極対応型」が多い。遠隔教育を実施する積極的必然性がない。
 - ② 技術先行で、枠組みが先にありそれに教育実践がついていけないのが現状。
 - ③ 方法上の議論が優先し、教育の内容、教育実践の質についての議論がない。

3. 遠隔教育の類型－内容と方法の軸



4. 遠隔教育の可能性と課題

- (1) 類型ごとの可能性
 - ① 通信教育型－ホームスクール、オンデマンド型教育等
 - ② 専門家ネットワーク型－専門機関ネットワーク、大学・研究機関と小・中・高校間ネットワーク等
 - ③ 交流・演習型－学校間交流、子ども放送局、位置情報と検索ツールを応用したフィールド学習等
 - ④ 総合プロジェクト型－データベース、辞書等の共同作成等
- (2) 教育上の課題
 - ① 遠隔教育の限界を踏まえること－教育のもつ「感性」「劇場性」「連続性」という特徴を技術がこえられるか。
 - ② 教育の質の検討－素材・教材等の内容や交流の質の検討が不可欠である。
 - ③ 実践者である教師の力量形成－教師文化、学校文化まで踏み込んだ議論が必要である。